

## 事例6 「これはカレー」「私はオムライス」「こっちはジュースね」

(園児一人一人が自分なりのイメージをもちながら遊びを十分に楽しんでほしい時期)

### 園児の実態から園児に体験してほしい内容を考え直し、 体験してほしい内容にふさわしい環境を構成する

園児が周囲の環境に関わり、遊びを楽しめるよう、教材や用具の提示の仕方を工夫し、園児が自ら関わるような環境を構成していくことが重要です。また、好奇心を抱き遊び込む過程で、自分なりの考えを遊びに反映できるような教材の準備や環境の構成を工夫することが大切です。行動範囲や動線、遊びの広がりなど、園児の活動の流れを考慮し教材や用具の配置、提示の仕方などの工夫をしていくことが必要です。

#### 園庭の環境の構成

4歳児・9月、園庭の藤棚の下は日差しを避けて遊ぶ場所として、園児たちには人気の場所となっている。担任の保育教諭は、砂場でのレストランごっこ等への発展を予想し、テーブル1台、砂場用のままごと用具、スコップ、安全を確認した家庭用の調理器具などを準備する。

#### 遊びの様子

園庭のわきを通して登園した園児が、砂場の環境の構成に気付き、外遊びが始まると同時に数名の園児が早速砂場で遊び始める。様々なままごとの容器に砂を入れ、型を取って皿に乗せ、担任にケーキやオムレツができたと言って持ってくる。

担任は「おいしい」と言って食べる真似をして、園児に返していたが、数回繰り返すと、園児たちは、鬼ごっこや固定遊具などの遊びに移行してしまい砂場遊びは終了となった。

#### 遊びから捉えた園児の姿と担任の保育教諭の思い

園児は、砂場での遊びの中で、砂で作ったものをケーキやオムレツなど、食べ物に見立てて遊ぶことを楽しんでいる。

すぐに違う遊びに興味が移る様子が多く見られる。

保育  
教諭

- 砂場を中心として、園庭全体の環境を活用しながら、砂場での遊びがレストランごっこやお店ごっこに広がったり、そこから園児同士の関わりも生まれたりするかもしれないと思っていた。
- 砂場での遊びは担任が予想していたほど楽しんでいないのではないかと。

担任の保育教諭は、自分の予想していた姿とは違う園児の姿が見られたことについて、先輩の保育教諭に相談してみました。

### <先輩の保育教諭のアドバイス>

今の園児の実態には、教材や用具の内容や設定が物足りなかったのかもしれないね。もう少し具体的にレストランをイメージできる教材や用具を準備してみてはどうか。

先輩  
保育  
教諭

担任の保育教諭は、アドバイスを基に、遊びの中で何を体験してほしいのかをもう一度考えてみることにしました。

### 遊びの中で体験してほしいことを考える

保育  
教諭

今の園児の実態から考えると、遊びの中で、  
自然物などの様々な材料を使い、見立てて遊ぶ楽しさを感じてほしい。  
レストランごっこやお店ごっこなど、自分のイメージした遊びを楽しんでほしい。  
遊びを通して、友達や担任と簡単なやり取りをすることの楽しさを感じてほしい。

その日、担任の保育教諭は、園児が砂場で遊ぶ姿を想像しながら、砂場遊びを発展させていくとしたら、どのような教材があれば、園児に体験してほしいことが実現できるかを考え、環境を準備しました。

### 次の日の環境の構成

前日と同じ砂場の教材、用具に加え、ペットボトル、惣菜用空パックや紙コップを準備しておく。また遊びに使ってもよい、園庭の花壇の草花を摘んでいくつかの小さなかごに入れておく。水もバケツに入れて準備した。レストランをイメージできる環境として、砂場のわきにいくつかのテーブルとベンチを準備し、わきに調理場用のテーブルを設定し、調理器具や皿などの器を並べておいた。

### 次の日の遊びの様子

昨日、砂場遊びをしていた数名の園児が遊び始める。担任も仲間に入りながら、型で抜いた砂の上に花を飾り付けたり、パックに盛り付けたりしながら遊んだ。園児たちは、それぞれイメージした料理を作りテーブルに並べると、「これはカレー」「私はオムライス」「こっちはジュースね」などと、担任に自分が作ったメニューを次々と言葉に出して伝えていた。それを見ていた園児がお客さんとしてやって来ると、注文や受注の会話を始めた。数名の園児は、コックさんやウエイトレスなどの役になり、それぞれが自分の動きを楽しみながら、遊びを進める姿が見られた。

そばで三輪車遊びをしていた男児は、三輪車のかごにパックに入った料理を入れると、デリバリーだと言いながら運んで行った。

園児たちはそれぞれのイメージや見立てで、砂場遊びを楽しむ姿が見られた。

## 事例から読み取れること

### 【園児の実態に応じて教材や遊びの場を工夫したり変化させたりする】

○担任の保育教諭は、いつもの砂場遊びの用具だけでは、遊びを発展させる面白さを味わえない園児もいることに気がきました。また、園児の実態や体験してほしい内容に応じた教材や用具を準備することの大切さにも気付き、先輩の保育教諭のアドバイスを基に、さらに数種類の教材を準備しました。草花や空きパックなどを準備したことで、食材やお弁当をイメージしたり、調理することをイメージしたりできるようになり、遊びの発展にもつながっていききました。

### 【体験してほしい内容に応じて、用具の数や遊ぶ場所の調整をする】

○前日に1台しか準備しなかったテーブルを、遊びの範囲と園児の動線を考慮し、テーブルと椅子を複数台準備したことで、園児の興味を引き出し自ら環境に関わる姿やレストランやデリバリーなどをイメージしながら遊びを楽しむ姿につながっていききました。また、教材の内容や提示の工夫をしていくことで、料理のメニューやレストランで働く人の役割など、園児一人一人が自分のイメージや体験したことがあることを再現しながら遊び、楽しむ姿が見られるようになりました。

砂場での遊びを通して、食材として活用できる草花や様々な用具を使い、園児一人一人が工夫しながら、料理を作ることを楽しむ姿が見られました。

「園児一人一人が自分のしたい遊びを十分に楽しめるように園児の興味に応じて必要な教材や用具を準備する」「準備した教材や用具、材料などを活用できるテーブルなどを園児と一緒に配置する」「一人一人が十分に使うことができるよう、教材や材料の量や、用具の数を工夫する」など、園児が自分なりの遊びや友達との関わりを楽しみ、満足感を味わうことができるような環境を構成していくことが大切です。

### 【保育教諭等と園児一人一人との触れ合いや関わりを大切にする】

○担任の保育教諭が、園児一人一人がイメージしたメニューを共有し、園児が自分の考えで作り出す喜びを感じられるように関わったことで、より遊びを楽しむことにつながっていききました。お客さん役やデリバリーの配達員など、園児たちは、一人一人のしたいことや遊びのイメージを表現しながら遊びを楽しむ姿が見られました。今後は、必要に応じて仲立ちをすることで、友達のしていることにより興味をもったり友達と関わることの楽しさを感じたりする体験につながるよう、援助していくことが考えられます。

○環境の一部である保育教諭等は、園児一人一人のつぶやきや思いを丁寧に捉え共感しながら関わり、安心して遊びに取り組める雰囲気や状況を作っていくことも大切な役割です。